

専門分野				
日本古代史				
研究課題				
平安時代皇親の研究、災害史、環境歴史学				
教育活動				
担当授業科目(学部)				
日本史概説 A・B、日本史特講 B、日本伝統文化、日本文化史、専門基礎演習、専門応用演習、卒業研究、リベラルアーツ入門 I・II、				
担当授業科目(大学院)				
事項	年月	対象者	概要	
教育方法の実践例				
作成した教材・資料集				
その他教育活動上特記すべき事項				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD 等				
『災害復興の日本史』	単	平成 25 年 1 月	吉川弘文館	古代から現代までの巨大災害の被害状況を読み起こし、人々がどのように災害から復興してきたのかを述べる。
『続日本紀と古代社会』	共	平成 26 年 12 月	吉川弘文館、p.383-399	共著者に西本昌弘、市第樹ほか。「緒嗣と冬嗣」を執筆。従来、晩年は病気がちで政務から離れたとされる緒嗣について、晩年まで政論家であり続けたことを明らかにし、北家興隆の基礎を気付いた冬嗣と対比して、孤高の政治家であったことを明らかにした。
『源氏物語の方法を考える』	共	平成 27 年 5 月	武蔵野書院、p.365-393	共著者に久下裕利、袴田光康ほか。「平安時代の親王任官について」を執筆。10世紀から12世紀にいたる親王の任官を精査検討し、それぞれの任官の特徴と時代の変遷を明らかにした。
『自然災害と疾病』	編	平成 29 年 3 月	竹林舎、全 p.494	古代・中世における自然災害と疾病がどのように当時の政治・社会に影響を与えてきたのかを様々な史料から検討した。執筆者に京樂真帆子、大江篤、柴田博子、丸山裕美子ほか。
学術論文				
『日本三代実録』元慶四年十月二十七日条をめぐる若干の考察	単	平成 24 年 8 月	『続日本紀研究』第 399 号、p.19-25	皇親の末裔を理由に課役免除した法的根拠を明らかにし、天長九年勅は淳和天皇の皇親優遇の意思を仁明朝に伝える意図があったことを明らかにした。
中古の災害観と神仏	単	平成 25 年 1 月	『悠久』第 129 号、p.51-63	10,11 世紀の災害と当時の災害観について野部、疾病や水旱・飢饉と神仏との関係から、神仏への祈願が当時の人々にとって唯一の災害から逃れる方法であったことを述べる。

度重なる大災害	単	平成 25 年 2 月	『本郷』No.104、p.11-13	過去には大災害に複数回遭遇することも珍しくなかったものであり、復興も容易ではなかったことを述べる。
『日本三代実録』の災害記事	単	平成 29 年 3 月	『自然災害と疾病』p.43-69	『日本三代実録』にみえる災害記事を検討し、記事記載の特徴を明らかにするとともに、貞観期や元慶・仁和期の災害状況を明らかにしている。
学会発表				
演奏会・発表会				
その他の研究発表、演奏				
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
『日本歴史災害事典』	共	平成 24 年 6 月	吉川弘文館、p.124-130	北原糸子、松浦律子等編。「古代の災害」を執筆。日本古代の災害について概観した。
『史学雑誌』123 編第 5 号 2013 年度回顧と展望 古代	共	平成 26 年 5 月	山川出版社、p.53-55	2013 年度に発表された日本古代史の論文で優れたものを紹介する。共著者に西本昌弘、市第樹ほか。担当は「撰関時代」と「災害史全般」。
書評「高橋一夫・田中広明編『古代の災害復興と考古学』」	単	平成 26 年 9 月	『日本歴史』796、p.89-91、吉川弘文館	古代の多様な災害を遺跡・遺物から検証し、その復興状況を明らかにした論文集を批判的に紹介したもの。
インタビュー記事「災害史に学ぶ『創造的復興』と困難を生き抜く智恵」	単	平成 27 年 2 月	『世界平和研究』204、p.10-16、世界平和教授アカデミー	東北大震災を踏まえたうえで、過去の災害に学ぶべき点について述べた。
ストーリーのある香り⑩『今昔物語集』	単	平成 27 年 9 月	『AEAJ』No.77、p.46、日本アロマ環境協会	『今昔物語集』にみえる香りに関する説話を取り上げ、その魅力について述べた。
歴史にみる自然災害	単	平成 28 年 4 月	月刊『BAN』平成 28 年 4 月号、p.19～23、教育システム	日本史上における巨大災害について述べた。
昭和戦前博覧会年表	単	平成 28 年 10 月	高橋千晶・前川志織編『博覧会 絵はがきとその時代』p.168-195	昭和戦前期に開催された博覧会を年次順に一覧表としたもの。
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	

その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
学内委員等				
就任期間		機関名・委員名・役職名		
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月		キャリア教育・開発委員		
平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月		教務委員		
平成 27 年 4 月～平成 28 年 12 月		学生部委員、VOICE 委員		
平成 28 年 12 月～現在		教務委員		
社会活動				
学会役員				
就任期間		学会役員名		
平成 18 年 6 月～現在		続日本紀研究会編集参与		
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
平城天皇と嵯峨天皇	単	平成 22 年 9 月	斎宮歴史博物館	兄弟である平城天皇と嵯峨天皇の確執を、親王の血統等から説明した。
平安京の環境事情とは？－平安時代のトイレから見ると－	単	平成 23 年 7 月	泉佐野市立生涯学習センター	平安京の実態を災害状況や当時のトイレの在り方などから説明し、実際にはかなり不衛生な都市であったことを述べた。
平安京のニオイ－平安貴族の生活と環境－	単	平成 28 年 2 月	KG 歴史考古の会	平安京の環境とそこから想像出来るのについて述べた。
古代のトイレ	単	平成 29 年 2 月	KG 歴史考古の会	古代におけるトイレについて考古学的発見を交えて、平安時代の貴族・庶民の排泄文化を論じた。
学外機関委員等				
就任期間		機関名・委員名・役職名		
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項				
海外での活動				
海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること				
期間	国名	概要		